

アジア環境問題への挑戦

Toward Sustainable Development in Asia



プログラム運営委員会委員長
教授 谷口 尚司
Professor
Shoji Taniguchi



プログラム運営委員会副委員長
教授 井奥 洪二
Professor
Koji Ioku

In 2007, Graduate School of Environmental Studies and Graduate School of Economics and Management, Tohoku University, made a joint proposal to initiate a program, "Graduate Program on Frontier Environmental Studies", which was accepted by Japan Society for the Promotion of Science (JSPS). The objective of this program is to nurture practical minded well-qualified personnel, who possess precise knowledge and broad perspective about the aggravating environmental problems owing to the rapid economic development experienced in Asia.

The menu of the subjects are various from social sciences such as environmental economics, emission trading and Asian economies to ecology, energy, recycling and other environmental techniques along with the environmental risk assessment. A distinctive feature of the program is "eco-practice" as one of the compulsory subjects under which the students will be sent to various Asian institutions for one to three months to expose themselves to international environmental problems and carry out feasibility studies of solutions.

This program had been completed in March 2010 after a term of three year and is succeeded to the International Center for Incubation of Environmental Leader with similar purpose of education.

プログラムの目的

本プログラムは、急速な経済成長の陰で深刻さを増しているアジアの環境問題に取り組める(基本的に文系の)人材を育成するために、文部科学省の大学院教育改革支援プログラム(2007年10月～2010年3月)として、本研究科と経済学研究科との連携によって始まった。環境科学の学際的な性質を考えると、経済学のような社会科学の知識だけではなく、理工系の環境科学や技術についての知識を合わせることが必要であり、そのような文理融合型の人材を育成することが教育の目的であった。このため理系の専門科目も必修とし、さらに座学だけでなく、国内の環境施設や現場を見学調査する「環境教育エクスカーション」や海外研修「海外エコ・プラクティス」(修士課程1ヶ月、後期課程3ヶ月程度)などの実地研修を必修としている点に特色がある。海外研修を安全かつ効果的に実施するために、従来から研究科と関係の深い大学等に加えて、学生を派遣する可能性の高いアジア諸国の大学や研究機関を担当教員が調査し交流することも本プログラムの特徴となっている。さらに国内外の著名な研究者を招聘し、アジアの経済と環境問題に関する特別講義や集中講義を開講して学生に最新の情報を提供してきた。また、国内外の教育・研究者による研究会、講演会や国際シンポジウムも定期的を開いた。プログラムは2010年3月に終了したが、目的をほぼ同じにする環境リーダー育成プログラムが同年4月から開始されたため、本プログラムはそれに一本化されて発展的に解消した。

2010年の活動

2010年の海外短期エコ・プラクティスでは、7名の学生が清華大学(中国北京)、現地政府(中国アモイ)、同済大学(中国上海)、海外協力NGOシャプラニール、ダッカ事務所(バングラデシュ)、マラヤ大学(マレーシア)、プトラマレーシア大学(マレーシア)などにおいて自分の研究に関する調査を通して、基礎・応用研究能力の強化を図った。詳細は下記の通り。

- (1)王珊珊(経済学研究科M1)、2010年2月～3月、北京(清華大学)、アモイ・コロンス島(中国)、「中国における家庭ゴミ分別処理の事例研究」、ヒアリング、環境局訪問、インタビュー、資料収集
- (2)陳艶(経済学研究科M1)、2010年2月～3月、北京、アモイ(中国)、「中国におけるエコツーリズムに関する考察」、生態文明センター訪問、国家図書館での資料収集、現地調査とインタビュー
- (3)陳浩妹(環境科学研究科M1)、2010年2月～3月、同済大学(上海・中国)、「中国における製紙産業の環境対策についての現地調査」、研究者にヒアリング、王子製紙ネピア(蘇州)有限公司と玖龍紙業(太倉)有限公司で調査、資料収集
- (4)伊藤詩織(環境科学研究科M1)、2010年3月、ダッカ、ジャマルプール、タンガイル(バングラデシュ人民共和国)、「フェアトレードがもたらす影響」、フェアトレード生産者、生産現場、ショップ訪問・調査、日本のNGO(バングラデシュ事務所)訪問
- (5)小西美紀(環境科学研究科M1)、2010年11月、マレーシア、「マレーシア環境汚染対策の歴史～パーム油搾油工場の排水規制を事例に～」、マラヤ大学とプトラマレーシア大学訪問、ヒアリング、JETROクアラランプールオフィ



プログラム立案・推進者
准教授 壹岐 伸彦
Associate Professor
Nobuhiko Iki



プログラム推進者
教授 明日香 壽川
Professor
Jusen Asuka



プログラム推進者
教授 境田 清隆
Professor
Kiyotaka Sakaida



プログラム推進者
教授 佐竹 正夫
Professor
Masao Satake



プログラム推進者
教授 丸山 公一
Professor
Koichi Maruyama



コーディネータ
教授 坂井 秀吉
Professor
Hideyoshi Sakai

ス訪問、政府刊行物センターと統計局、環境局図書館で資料収集

(6)小山裕貴(環境科学研究科M1)、2010年11月、マレーシア、「発展途上国における気候変動政策～マレーシアに見る新たな動き～」、マラヤ大学(UM)訪問、図書館、新聞社で資料収集、JETROクアラランプールオフィス訪問・インタビュー

(7)永井利和(環境科学研究科M1)、2010年11月、マレーシア、「アジアにおける企業のCSRに関する取り組み～マレーシアの事例を中心に～」、MIA(Malaysian Institute of Accountants)やJETROでのヒアリング、情報収集、新聞や雑誌の記事検索

講演会や研究会の詳細は、TOPICSの記事(pp.107-108)に掲載しているので割愛する。海外の大学との交流は、2010年3月にインドネシアのガジャマダ大学を佐竹と井奥が訪問した。(写真参照)

プログラムの成果と課題

本プログラムの成果としては、①文理融合教育が実践されたこと、②学生のアジア諸国での研修(海外エコ・プラクティス)、③アジア諸国の大学との人材交流、が指摘できるであろう。実際、文部科学省の事後評価でも「文理融合教育の推進の取組が積極的に行われ、学生の実地研修・海外派遣、国際交流が進展するなど、実施計画が着実に実施され、大学院教育の改善・充実に貢献している。また、学生相互の交流を促す文理融合教育の方法、海外エコ・プラクティスにおける安全管理体制の整備など、各種工夫がなされており、本プログラムはほぼ計画通り実施され、目的がほぼ達成されたと判断できる」と評価されている。他方、今後の課題としては、具体的な人材として想定した環境マネジメント系の教育が十分ではなかったと思われる。また、研究科全体に対する教育改善の波及効果が限定されたものであったとの事後評価の指摘は了承されるものである。今後は「環境リーダー育成プログラム」が本プログラムの精神を引き継ぎ、高度な専門性と実践性そして国際的な視野を持つ人材を育てることを期待するものである。



At the Gadjah Mada University in Yogyakarta, Indonesia



International Workshop on 'Environment-Friendly Development in East Asia'